



今回は、5月3日、水俣の「もやい館」にて行われた「わたしが選んでうまれてきたよ」の講師、池川明先生との講演会前の一コマをご紹介します。



生まれて7時間後の赤ちゃんがしゃべろうとしている映像をお見せしましょう。赤ちゃんがお母さんの「あー、あー、あー」とか「いー、いー、いー」とか声に反応して、しゃべろうとしているように見えるでしょう。この子が

4歳になった時、この映像を見せたところ「この時のこと、覚えている。お母さんが喋ってっていうから一生懸命しゃべろうとしたんだけど、人間って練習しないと話せないんだよね。」って言うんです。すごいでしょ。赤ちゃんはこちらの言うことは理解している。ただ、練習しないと喋れないっていうだけ。あかちゃんは親のレベルに合わせるんです。親の期待に応えようとする。「いい子ね。すごいわね。」と声をかけるのか、「バカで、ちっとも言うことを聞かない。」と声をかけるのか。褒められて育った子は、自信がある。否定されれば、どんなにできる子でも自分はダメだと思ってしまう。あなたはどんな子どもに育てたいですか？



今ね、お母さんたちに自分でお腹の中のあかちゃんと会話をしてもらってます。

「〇〇しても大丈夫かな？」とか。そうしたら、

「大丈夫って言ってます。」とか、自分で答えを出してくれる。

大橋「そうすると、先生がとても楽になりませんか？」

ホントに楽。自分で決めてくれるからね。先生がこう言ったからとか、人のせいにはしないですからね。

大橋「今、その責任を全部負おうとして、大変になっている産婦人科の先生が多いのではないかと思うのですが。」

そうですね。そういう人は、考え方によっては偉い人だと思います。でも大変になりすぎると手に負えなくなり、結局、母

親に寂しい思いをさせてしまう結果になることもある。それは避けたいことですよ。

胎内記憶のある高校生の女の子に、どんな時に愛を感じるのか聞いてみたら、お父さんお母さん、そして上の子がいたらその子も含めて、みんなが幸せな時にピンクのオーラに包まれて、愛を感じるって言うんですよ。

心を空っぽにして子どものために頑張っているお母さん、いるでしょ。そして「あなたのために、これだけやっているのに」って言ったところで子どもには何も伝わってない。人は心にコップがあって、そのコップに水を注ぐ。いっぱい入って、その水があふれた時に愛情を感じるって言ってました。つまり、お母さんが幸せじゃないと、子どもに愛は伝わらないって。びっくりしました。それを聞いたのがつい3週間くらい前。もう、ショックでした。

大橋「その子の言うことは正しいかもしれない。」

皆がみんな同じことを言う訳じゃないけど、記憶がはっきりしてる子です。お母さんが妊娠中にいかに愛情あふれる生活を送るかで、子どもに自然と愛が伝わります。ただ、赤ちゃんにも個性があるから、いろんな感じ方がありますが。

田上「私は離婚してて、下の子は父親と暮らしたこともないんですが、8年前池川先生のお話を聞いて、こんな私を選んでくれたんだと思ったら、嬉しくて嬉しくて、子どもたちが愛おしくてたまらなくなりました。」

「こんな私」を選んだのではなく「こんな私だから」選んだんです。お母さんたちは完璧を目指すでしょ。でも完璧なお母さんはずまらないんです。

完璧じゃないから、子どもと一緒に成長しようと思ってくるらしいですよ。逆に完璧だと鍛えがいがいいらしい。

そんなお母さんが良いんです。

**こんな感じでまたしてもホッと
する時間を頂きました。
ぜひ、出水にもお招きしたい
と思います。お楽しみに♥**

